

コロナ禍における2回目の夏、海の事故は急増 海の事故ゼロキャンペーン期間中(7/16-7/31)の 船舶事故・人身事故発生状況(速報値)

- 船舶事故は113隻(108件)(前年比32隻増加)
このうち、プレジャーボートの船舶事故が急増(前年比26隻増加)
- 人身事故は70人(前年比23人増加)
このうち、遊泳中の事故が急増(前年比16人増加)

船舶事故発生状況

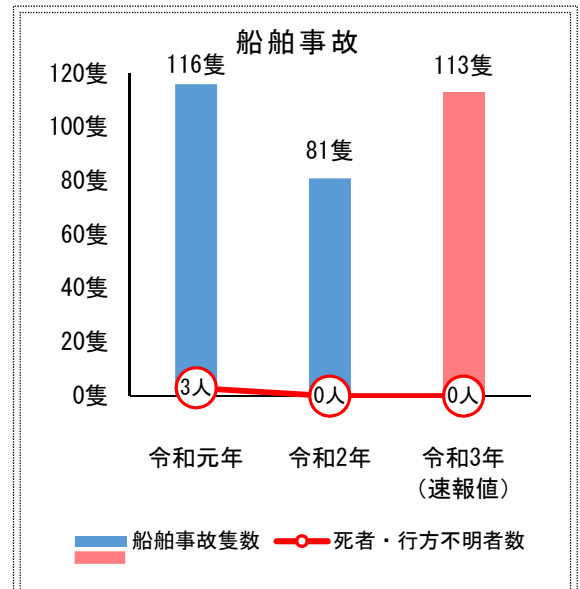
- 事故隻数は113隻(108件注)(前年比32隻増加)
- 船舶事故に伴う死者・行方不明者数は0人
- プレジャーボートの事故は81隻(前年比26隻増加)
- プレジャーボートの事故は運航不能(機関故障)が35隻(前年比14隻増加)

<推定要因>

プレジャーボートの活動が次の理由で活発化した可能性があり、このことが事故増加に影響したと考えられます。

- ・梅雨明けが例年より早かった地域が多く、期間を通じて比較的天候にも恵まれたこと
- ・令和2年に小型船舶操縦士試験合格者が急増したこと

注:件数は、船舶同士の衝突及び火災の延焼が発生した場合、関係する船舶を1件としてまとめている。
※事故隻数は、民間救助機関が救助した船舶事故を含む。



マリンレジャー活動に伴う人身事故発生状況

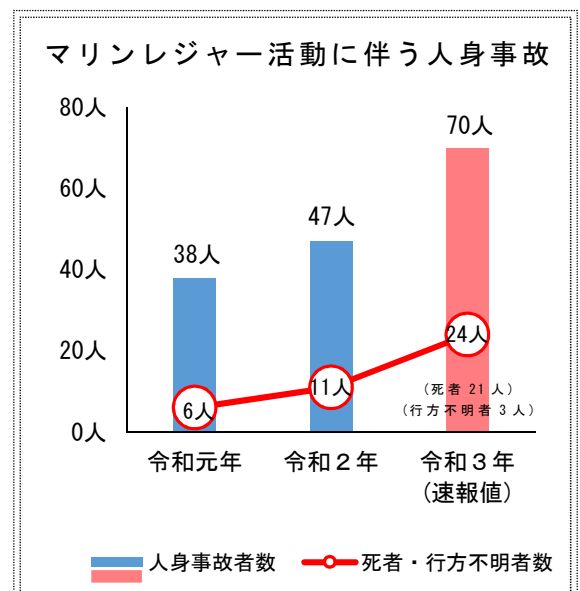
- 事故者数は70人(前年比23人増加)
- 死者・行方不明者数は24人(前年比13人増加)
- 遊泳中の事故者数は25人(前年比16人増加)
- 不開設の海水浴場における遊泳中の事故者は1人

<推定要因>

海水浴場以外の海岸で遊泳する方が次の理由で増加した可能性があり、このことが事故増加に影響したと考えられます。

- ・梅雨明けが例年より早かった地域が多く、期間を通じて比較的天候にも恵まれたこと
- ・不開設になった海水浴場が多数あったこと

※事故者数は、民間救助機関が救助した事故者は含まない。

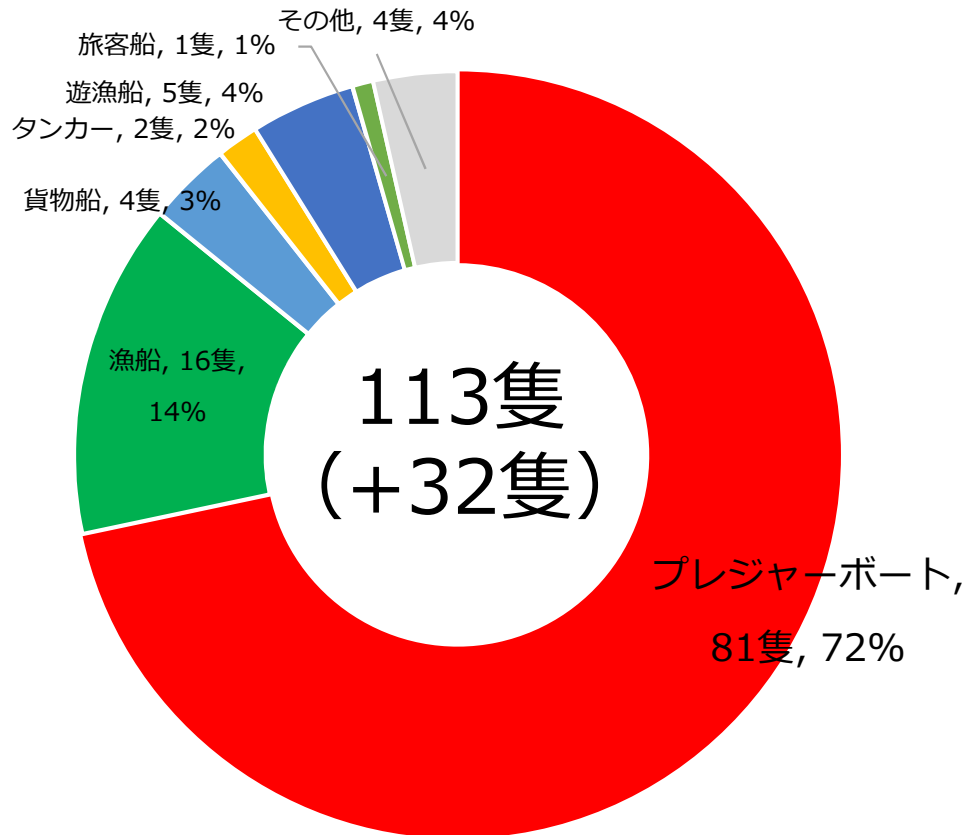


船舶事故発生状況

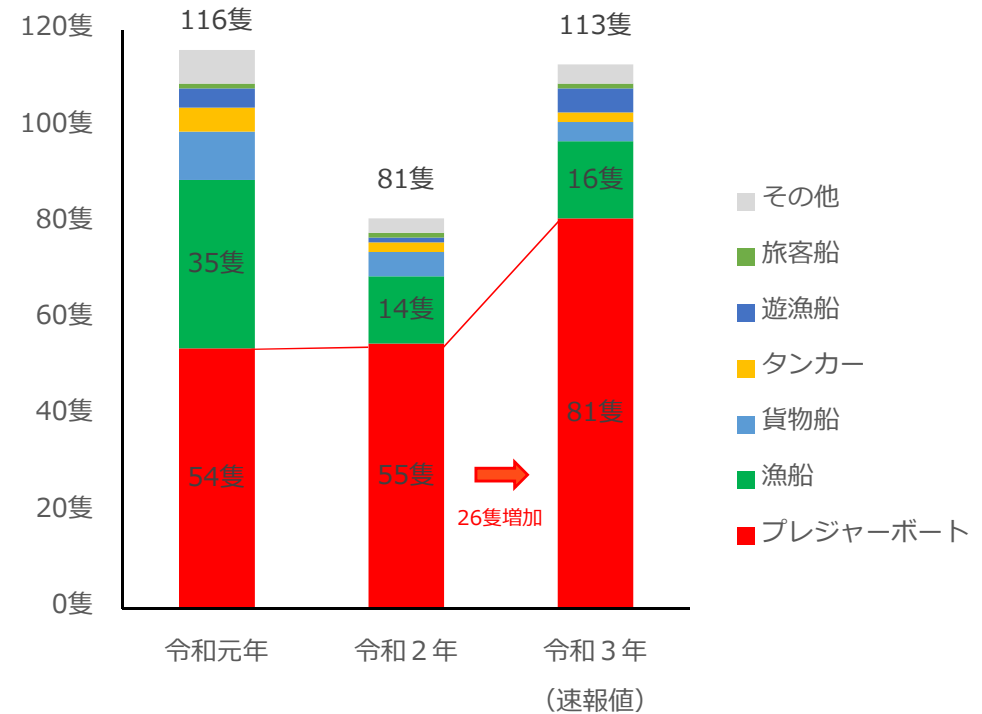
船舶事故発生状況

- ▶ 船舶事故隻数 : 113隻 (前年比 32隻増加)
- ▶ 死者・行方不明者 : 0人 (前年比 ±0人)
- ▶ プレジャーボートの船舶事故は、全体の7割となる81隻で最も多く発生 (前年比 26隻増)

【船舶用途別発生状況】



【過去3年間の船舶事故発生状況】

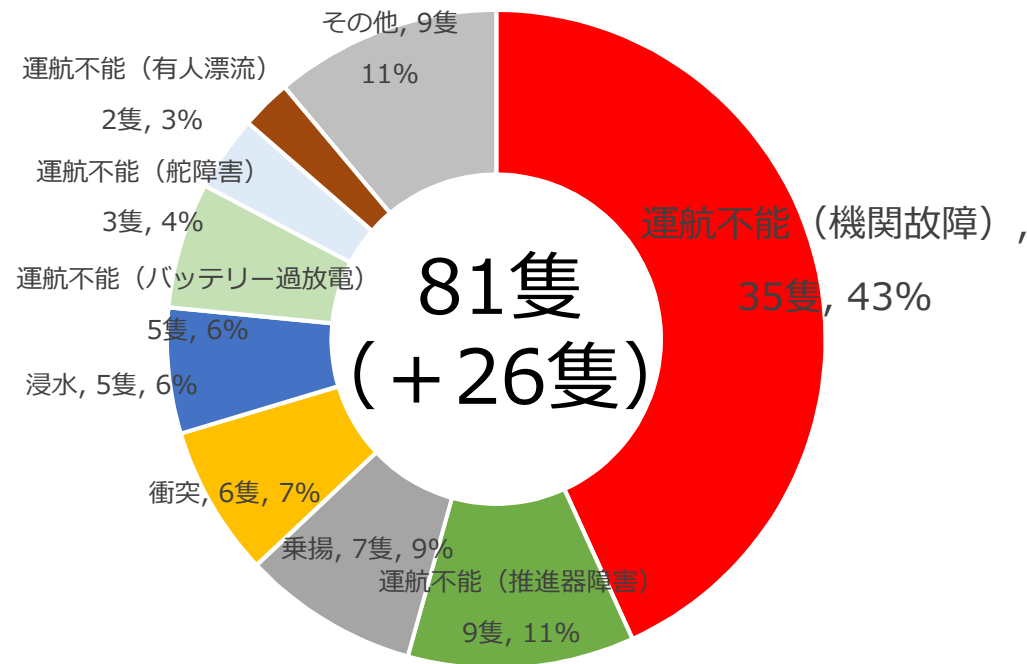


※円グラフの中央 () 書きは前年比の増減隻数

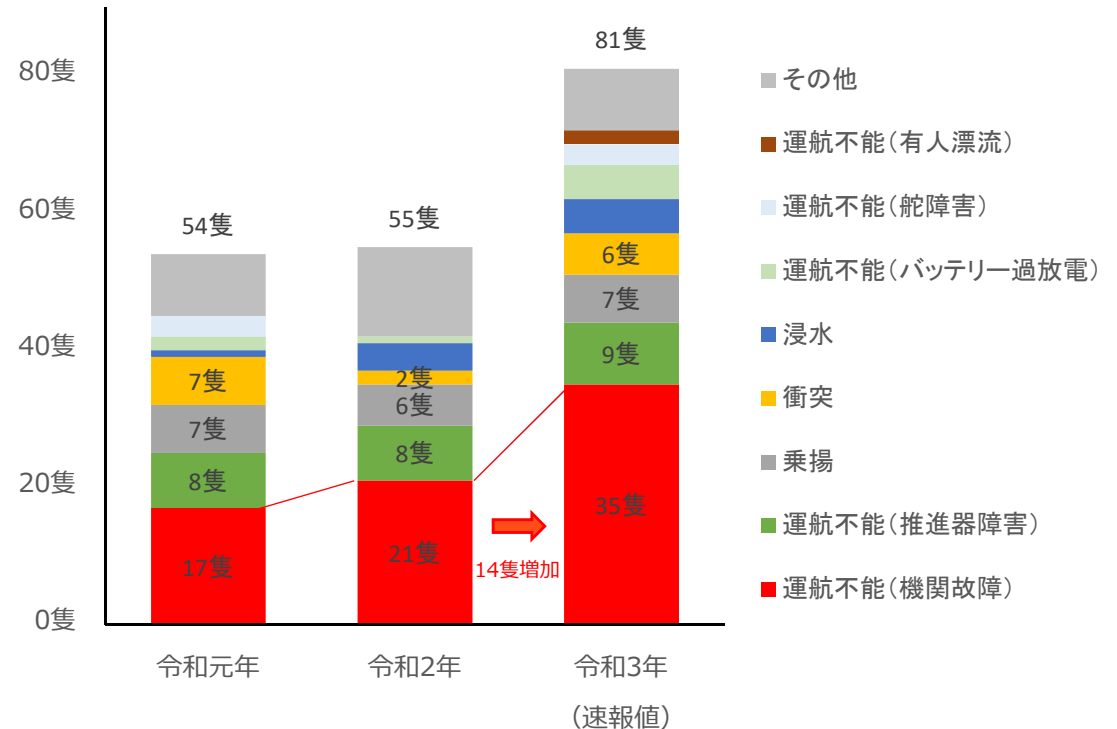
船舶事故発生状況

▶ 運航不能（機関故障）の船舶事故は、プレジャーボートの船舶事故全体の4割となる35隻で最も多く発生（前年比14隻増加）

【令和3年海難種類別発生状況】



【過去3年間のプレジャーボートの船舶事故発生状況】



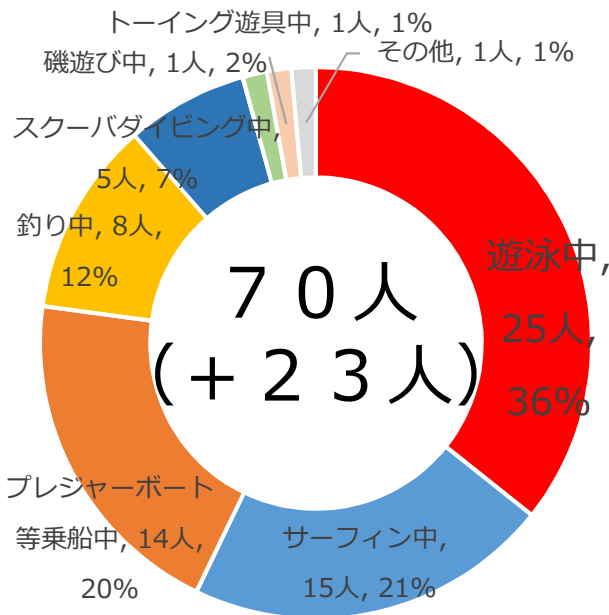
※円グラフの中央（ ）書きは前年比の増減隻数

人身事故発生状況

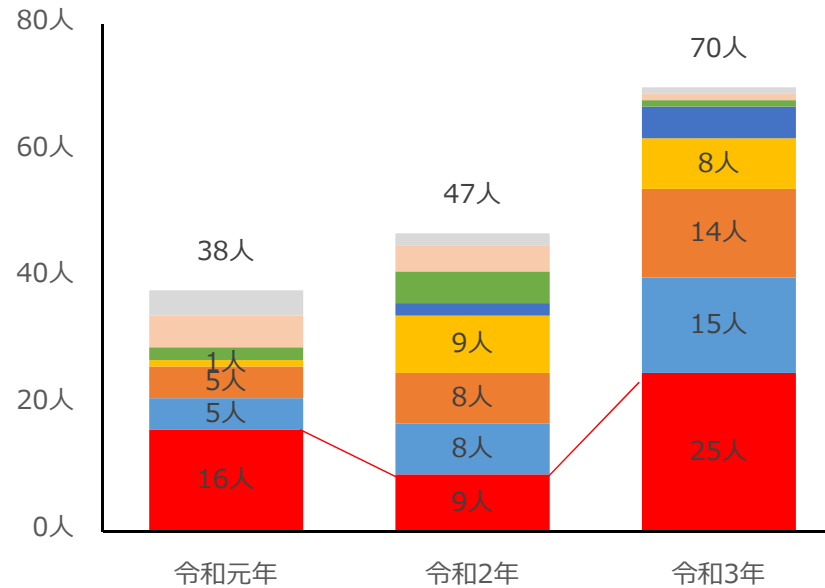
- ▶ 人身事故者数 : 70人 (前年比 23人増加)
- ▶ 遊泳中の人身事故は、マリレジャー活動に伴う人身事故全体の約4割となる25人で最も多く発生(前年比16人増加)
このうち、海水浴場以外の海岸で発生した事故は16人 (不開設海水浴場における事故者1人を含む) で6割を占めた

発生状況詳細

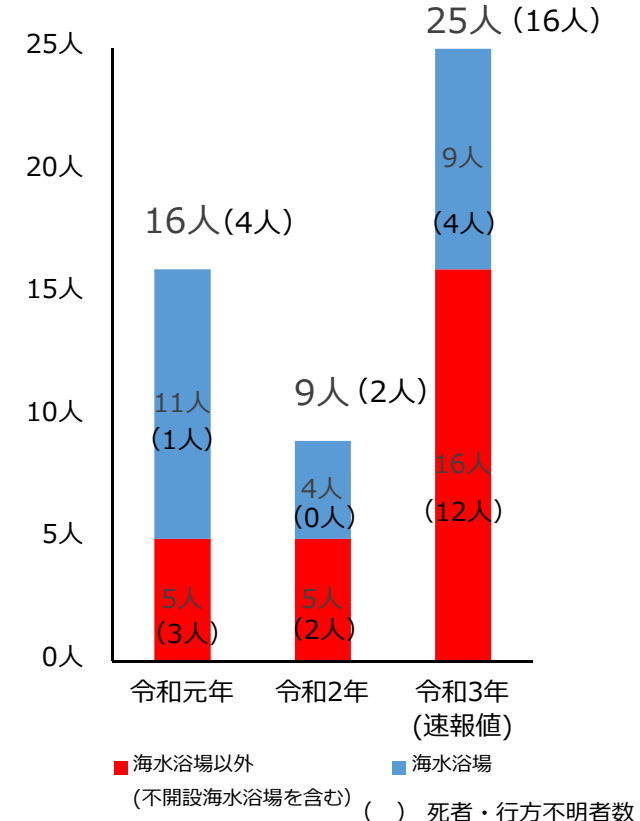
【令和3年活動内容別】



【過去3年間の人身事故発生状況】



【過去3年間の遊泳場所別】



※円グラフの中央 () 書きは前年比の増減隻数

- 遊泳中
- プレジャーボート等乗船中
- スキューバダイビング中
- トーイング遊具中
- サーフィン中
- 釣り中
- 磯遊び中
- その他

不開設海水浴場の遊泳中の人身事故1人(前年比±0人)

「マリレジャー活動」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン、ボードセーリング、スキューバダイビング等の海浜における余暇活動並びにプレジャーボート及び遊漁船による遊走等としています。

主な事故事例

船舶事故

年月日 令和3年7月21日
場所 神奈川県横須賀市沖
事故船舶 プレジャーボート 3人乗り
海難種類 運航不能（機関故障）
概要 釣り場を移動するため船を動かそうとしたところ、エンジンがかからず運航不能になったもの。付近を航行する漁船に救助を求めて、最寄りの港まで曳航救助された。

年月日 令和3年7月25日
場所 神奈川県三浦市沖
事故船舶 プレジャーボート 4人乗り
海難種類 乗揚
概要 クルージングを終えてマリーナに向けて航行中、定置網に乗り揚げたもの。事故船舶はプロペラを損傷したが、自力航行でマリーナに帰港した。

人身事故

不開設海水浴場

年月日 令和3年7月28日
場所 兵庫県洲本市 新都志海水浴場
事故者 10代 男性
活動内容 遊泳中
海難種類 溺水
概要 事故者は、遊泳中に溺水したものの。その後、搬送先の病院で死亡が確認された。

海水浴場

年月日 令和3年7月30日
場所 和歌山県白浜町 白良浜海水浴場
事故者 10歳未満 女兒
活動内容 遊泳中
海難種類 溺水
概要 事故者は、家族と遊泳中、家族が子供から目を離れた間に波打ち際で溺水したものの。砂浜に引き揚げ、ライフセーバーにより救命措置が実施され、意識を取り戻した。

【過去5年間の海難発生推移（7/16～7/31）】

		平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年 (速報値)
船舶	海難隻数（隻）	115	94	126	80	97（90件）
	死者・行方不明者数（人）	0	2	3	0	0
人身	マリンレジャー活動に伴う海難者数（人）	107	108	60	76	120
	死者・行方不明者数（人）	29	24	9	14	26
船舶・人身 死者行方不明者数 計（人）		29	26	12	14	26

1 事故発生状況

- (1) 海水浴場以外の海岸における事故者数は、遊泳中の事故全体の6割以上となる16人で、うち12人が死亡または行方不明

※ 死亡：9人、行方不明：3人

- (2) 事故者数は、令和2年の5人と比較して3倍に増加

2 事故の特徴

- (1) 海水浴場以外の海岸は、海水浴場と比較して**事故の発生割合が高い**

※ 海水浴場：25人中9人（36%）、海水浴場以外：25人中16人（64%）

- (2) 海水浴場以外の海岸における事故は、海水浴場と比較して**死亡または行方不明に至る割合が高い**

※ 海水浴場：9人中4人（44%）、海水浴場以外：16人中12人（75%）

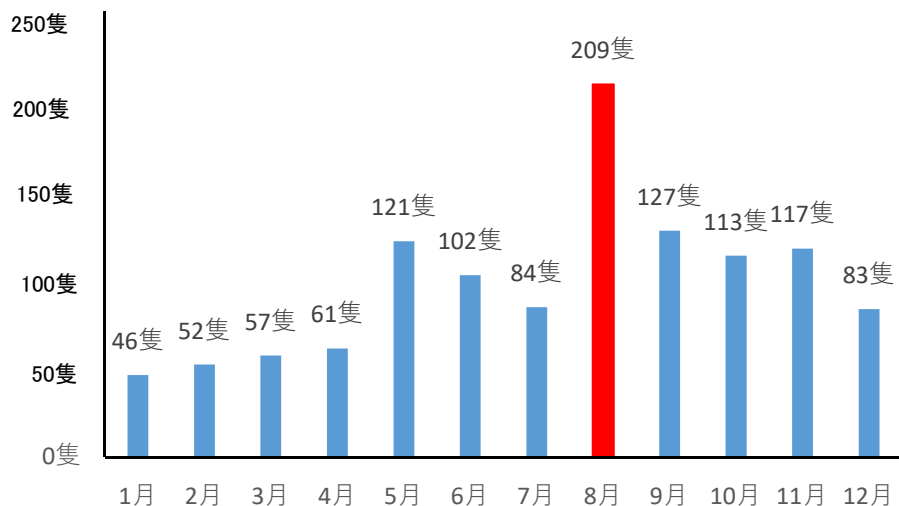
3 懸念

長期休暇で行楽が盛んな時期に入るため、海水浴場以外の海岸における遊泳中の事故が増加する可能性がある

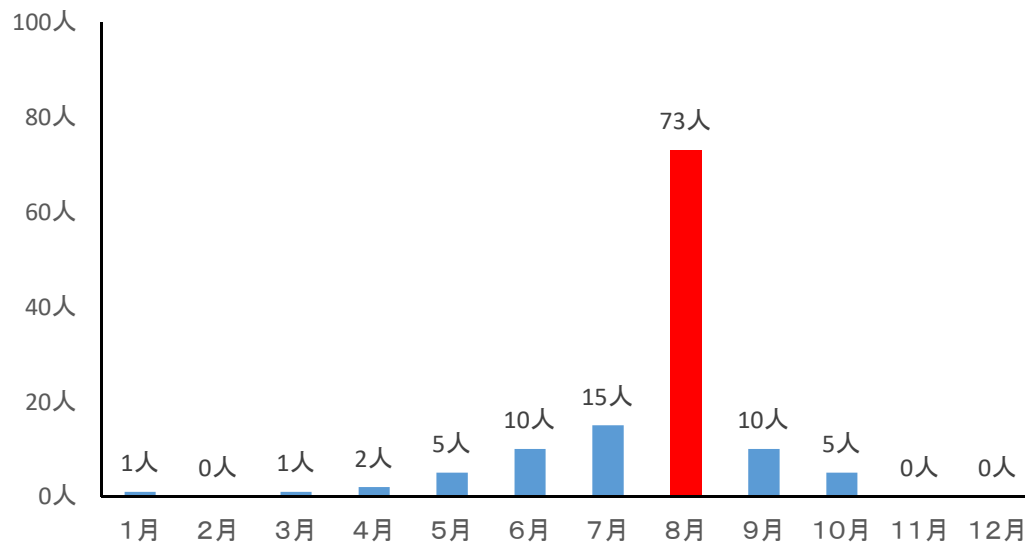
8月は船舶・人身事故が増加

例年8月はマリンレジャーが活発する時期となり、事故が**増加する**傾向があります！

(R2年)



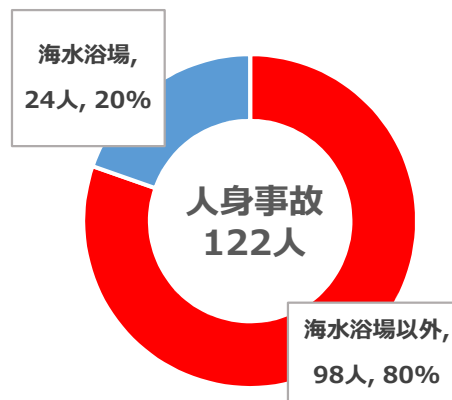
(月別プレジャーボート船舶事故発生状況)



(月別遊泳中海難発生状況)

8月海難種類別発生状況 ※上位3位

- **運航不能（機関故障）** 87隻
- 乗揚 23隻
- 運航不能（燃料欠乏） 17隻



遊泳中の事故の多くは
「海水浴場以外」
で発生！

プレジャーボートの事故防止

運航不能（機関故障）を防止するため以下の項目を徹底しましょう。

- 小型船舶操縦者の遵守事項に定められている**発航前検査の徹底**
- **「整備事業者等による定期的な点検整備」**の実施

遊泳の事故防止

以下の項目等が守られた**管理されている海水浴場**で遊泳しましょう。

- 水上オートバイ等、他のレジャーとの混在を防ぐため、ブイやネットにて遊泳区域が明示
- 事故発生時の即応体制が取れる監視員やライフセーバー等が配置

気象に注意！

この時期は台風や天気の急変が起こりやすいため、こまめに天気予報を確認し、悪化する予報があれば出港や遊泳は控えましょう。

ウォーターセーフティガイドの活用

海上保安庁では、海で安全に楽しむためのアクティビティごとの事故防止に関する情報を発信しています。次の6つのアクティビティをする前にぜひ、ご覧ください。

「水上オートバイ」「遊泳」「カヌー」「SUP」「ミニボート」「釣り」

